

令和4年7月20日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (穂いもち)	やや多	7月上旬葉いもち発生量 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 (-) 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 葉いもちの発生しているほ場では、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除する。さらに多発する場合は穂揃期にも薬剤防除する。 令和3年度病害虫発生予報第4号P5「これから注意を要する病害虫」を参照する。
	紋枯病	やや多	7月上旬発生量 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 穂ばらみ期に発病株率15%以上の場合、薬剤防除する。 令和2年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」を参照する。
	ごま葉枯病	やや多	7月上旬発生量: やや多 (+) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が多い場合は薬剤防除する。
	斑点米カメムシ類	大型のカメムシ類	並	7月上旬本田発生量: 並 7月上旬雑草地発生量: 並 気象予報: 気温高 (+) 降水量並
カスミカメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメ)		やや多	7月上旬本田発生量: 並 7月上旬雑草地発生量 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 アカヒゲホソミドリカスミカメ (-) アカスジカスミカメ (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> P5「これから注意を要する病害虫」を参照する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	イネクロカメムシ	少	7月上旬発生量：少（－） 6月予察灯誘殺数：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 気温の高い日中は株元において薬剤がかかりにくいいため、薬剤防除は朝や夕方に行う。
	セジロウンカ	並	7月上旬発生量：やや少（－） 6月予察灯誘殺数：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋）	・ 7月中旬頃に株当たり 10 頭以上寄生していた場合には薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	並	7月上旬発生量：並 6月予察灯誘殺数：やや少（－）	・ イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 ・ 周辺イネ科植物から6月上旬頃本田に侵入し、産卵・増殖する。 ・ 幼穂形成期を迎えていない水田でイネ縞葉枯病が多発している場合は、薬剤防除する。
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	7月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
ラッカセイ	白絹病	並	7月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 病株は周囲の表土と共に除去する。 ・ 収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	褐斑病	やや少	7月上旬発生量：少（－） 気象予報：降水量並	・ 多発ほ場では薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	さび病	やや少	7月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 発生初期から薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすい。 ・ 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。
	ネギコガ	並	7月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすい。 ・ 幼虫は、葉内に侵入して食害するので、初期防除に努める。
サトイモ	アブラムシ類	やや多	7月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 薬剤防除は、葉裏にも十分かかるようにいねいに行う。
	ハダニ類	やや多	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	6月フェロモントラップ誘殺数： やや少（－） 7月上旬発生量 秋冬ネギ：並 [発生なし] サトイモ：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 ・ 薬剤防除の場合、幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に行う。
	オオタバコガ	やや多	6月フェロモントラップ誘殺数： 並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 幼虫は見つけ次第捕殺する。 ・ 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	やや多	6月下旬発病果率 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 (-) 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	シンクイムシ類	やや多	6月下旬発生量 : 並 [発生なし] 6月フェロモントラップ誘殺数 : 多 (+) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	・ 加害が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	ハマキムシ類	並	6月下旬発生量: 並 6月フェロモントラップ誘殺数 : やや少 (-) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	
	ハダニ類	並	6月下旬発生量: 並 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	・ 増殖が速いので、発生初期から防除する。 ・ 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を助長しないよう、同一系統の剤は年1回の使用とする。
温州ミカン	そうか病	並	6月下旬発生量: 並 気象予報: 気温高 (-) 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	ミカンハダニ	やや多	6月下旬発生量: やや多 (+) 気象予報: 気温高 (-) 降水量並	・ 夏期(6~8月)防除の判断は寄生葉率で30%を目安とする。
果樹共通	カメムシ類	多	6月フェロモントラップ誘殺数 : 並 6月果樹予察灯誘殺数 : 多 (+) 気象予報: 気温高 (+)	・ カメムシ類の発生量は地域差があるため、果樹園への飛来状況は地域や園地により異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方が活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

斑点米カメムシ類

(1) 斑点米カメムシ類とは

斑点米カメムシ類は、体長5mm程度のカスミカメムシ類と、体長10mm以上の大型斑点米カメムシ類が存在する(写真1)。斑点米カメムシ類は、種類によって子実の加害時期や加害部位が異なるため、原因となるカメムシ種を特定し、適切な対策を取ることが重要である。

①カスミカメムシ類

口器が弱く籾を通して刺すことができないため、登熟初期～中期に頂部を加害し、頂部加害型斑点米を生じる。また、後期には鉤合部又は籾割部から加害し、側部加害型斑点米を生じる。本種群による登熟初期の加害は、玄米へのダメージが小さいため、不稔米となりやすく、斑点米を生じやすい。

②ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ

口器が強く籾を貫通して加害できるため、全期間を通じて無差別加害型斑点米を生じる。また、登熟後期は鉤合部から加害が増加し、側部加害型斑点米を生じる。登熟初期～中期の加害は、玄米へのダメージが大きいため不稔米となりやすく、減収の原因となる。登熟後期の加害により斑点米を生じやすい。

③クモヘリカメムシ

口器が弱く鉤合部から加害するため、側部加害型斑点米を生じる。加害による玄米へのダメージは著しく高く、登熟初期～中期にかけて不稔米を生じやすく、減収の原因となる。登熟後期の加害により斑点米を生じやすい。

④イネカメムシ

全期間を通して子実の基部を加害し、基部加害型斑点米を生じる。水田内で増殖し、登熟初期よりも中後期の密度が高くなるため、斑点米を生じやすい。登熟初期に加害された子実は不稔米となりやすい。

本カメムシは、出穂期以降に成虫の飛来が急激に増加するため注意が必要である。2015年頃から千葉県では、被害が急増している。



写真1 斑点米カメムシ類の大きさ比較 右の目盛りは1mm

左側から、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、
ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ、ミナミアオカメムシ

(2) 斑点米カメムシ類の防除について

斑点米カメムシ類は、出穂期頃から成虫が水田内に飛来し子実を加害する。また、大型斑点米カメムシ類は水田内で増殖するため、ふ化した幼虫が子実を登熟後期まで加害する。防除適期は、成虫が飛来する穂揃期（出穂後3日頃）と幼虫がふ化する乳熟後期（出穂後15日頃）である。以下に登熟段階別の斑点米カメムシ類の被害と防除の目安を示す。

①出穂期

ほ場全体で40～50%が出穂した時期のこと。この時期に斑点米カメムシ類が水田に飛来する。

②穂揃期

ほ場全体で80～90%が出穂した時期のこと。成虫の飛来ピークであり、大型斑点米カメムシ類はすぐに産卵するため、防除を行う。この時期に加害されると不稔米になりやすい。不稔米は穀粒選別機で除去されるため、等級に影響を与えないが減収となる。

③乳熟期

乳熟期後期以降に加害されると、玄米の発育は停止せず、斑点米となる玄米が発生する。この時期は水田内でふ化・生育した幼虫の密度が高いため、防除は幼虫密度の低下を目的に行う。

④糊熟期以降

薬剤の残効が切れた後に加害が予想される場合は、追加防除を検討する。

(3) 粒剤による防除

粒剤による斑点米カメムシ類の防除はドリフトのリスクが少ないため、航空防除が困難な地域や多発生時の追加防除に有効である。

斑点米カメムシ類の防除適期は穂揃期であるが、粒剤は水に溶けた成分が水稻に吸収されて効果を示すため、出穂期に湛水散布し1週間程度湛水状態を保つ。

(4) 畦畔の雑草対策

ほ場周辺の雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となる。出穂期前後の雑草防除はカメムシ類をほ場に追い込むため逆効果である。雑草防除は出穂2週間前までに実施し、予めカメムシの密度を下げておくことが重要である。

草刈りの他に、これ以前の時期に除草剤を畦畔に散布する方法もある。非選択性茎葉処理剤と土壌処理剤を混用すると抑草期間が2か月間程度と長くなり、高温時の作業負担の軽減にもつながる。なお、散布の際には専用ノズルや飛散防止カバーを使用する。

表 水田畦畔の雑草に使用可能な除草剤例

除草剤名	種類	同一成分 使用回数 (注)	成分
ラウンドアップマックスロード	非選択 性茎葉 処理	3回以内	グリホサートカリウム塩
バスタ液剤		2回以内	グルホシネート
ザクサ液剤		2回以内	グルホシネートPナトリウム塩
カーメックス顆粒水和剤	土壌 処理	1回	DCMU
ダイロンゾル		1回	DCMU

注) グルホシネートとグルホシネートPナトリウム塩は同一成分として数える

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稻・サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：7月上旬、果樹：6月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病（葉いもち）	発病度	2.44	1.14	4.49	
	紋枯病	発病度	0.03	0.02	0.00	
	ごま葉枯病	発病度	0.51	0.58	1.94	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.01	0.75	0.01	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.03	0.02	0.00	
	ニカメイガ	被害株率（％）	0.00	0.02	0.11	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.36	0.15	0.03	
	セジロウンカ	本田すくい取り捕獲虫数 注1)	0.03	0.33	0.09	
	ヒメトビウンカ	本田すくい取り捕獲虫数	0.84	0.67	1.29	
	ツマグロヨコバイ	本田すくい取り捕獲虫数	0.96	0.49	0.29	
	フタオビコヤガ	本田すくい取り捕獲虫数	0.60	0.14	0.16	
	コバネイナゴ	本田すくい取り捕獲虫数	1.87	2.82	3.09	
	大型のカメムシ類	本田すくい取り捕獲虫数	0.19	0.24	0.83	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.04	0.06	0.04	
	アカスジカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.00	0.15	0.37	
	クモヘリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数 注2)	0.37	0.10	0.46	
	ホソハリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	1.01	0.93	0.54	
	イネカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.03	0.03	0.00	
	シラホシカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.64	0.28	0.24	
	大型のカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	2.09	1.37	1.26	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	4.01	2.95	1.99		
アカスジカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	26.06	19.34	12.76		
サツマイモ (印旛・香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.00	0.14	0.20	
	イモキバガ	被害葉率（％）	1.40	2.26	2.20	
ラッカセイ (千葉・君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	1.55	5.20	3.50	
	黒渋病	発病度	0.00	0.01	0.00	
	白絹病	発病株率（％）	0.00	0.05	0.10	
サトイモ (印旛、香取、君津)	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	0.0	0.1	0.4	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	61.8	56.2	48.0	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率（％）	32.7	33.7	34.9	
秋冬ネギ (長生・山武)	黒斑病	発病度	0.14	0.67	0.75	
	さび病	発病度	0.00	1.77	3.63	
	べと病	発病株率（％）	0.00	0.13	0.50	
	ネギアザミウマ	被害度	14.14	13.33	16.63	
	ハスモンヨトウ	被害株率（％）	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率（％）	0.00	0.30	0.00	
ネギハモグリバエ	被害度	0.57	1.52	0.38		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率（％）	2.62	1.89	0.85	
	黒星病	発病果率（％）	2.03	1.01	0.82	
	赤星病	発病葉率（％）	0.00	0.49	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率（％）	0.00	0.11	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	3.91	4.93	4.53	
	ニセナシサビダニ	被害新梢率（％）	0.00	0.28	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.16	0.11	0.40	
		葉の発病度	0.16	0.09	0.24	
	かいよう病	果実発病度	0.04	0.04	0.04	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.06	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率（％）	16.00	5.98	0.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	0.00	0.38	0.00	
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.34	0.40		

注1) 調査ほ場で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

注2) 調査ほ場周辺の畦畔や路肩などの雑草地で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

トラップ月間誘殺数（6月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.0	2.0	2.0	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	0.3	0.0	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	0.0	1.4	0.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	1,256.7	7.7	13.0	
	フタオビコヤガ	〃	2.3	1.5	1.3	
	イネヨトウ	〃	2.3	3.7	5.0	
	ニカメイガ	〃	0.7	0.4	0.7	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	4.3	4.6	3.3	
	クモヘリカメムシ	〃	0.0	0.1	0.3	
	ホソハリカメムシ	〃	1.0	0.1	0.7	
	イネカメムシ	〃	2.7	0.2	0.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	10.0	13.5	8.7	
	アカスジカスミカメ	〃	9.7	25.9	15.0	
ミナミアオカメムシ	〃	0.7	0.1	0.3		
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	12.0	3.1	1.7	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.7	0.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	3.0	1.1	0.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イチモンジカメムシ	〃	0.0	0.1	0.0	
	ホソヘリカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
(コガネムシ類)	アカヒロウドコガネ	〃	5.0	6.6	3.7	頭/月
	オオヒロウドコガネ	〃	2.7	8.0	1.0	
	ヒメコガネ	〃	0.7	2.6	0.3	
	ドウガネブイブイ	〃	7.3	1.8	2.7	
	オオクロコガネ	〃	12.3	15.3	3.0	
	アオドウガネ	〃	3.3	1.8	9.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	9.0	2.8	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	10.0	3.6	2.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	22.0	8.3	4.0	
	カメムシ類	〃	41.0	14.7	6.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	2.3	3.4	3.7	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.2	0.3	0.2	
	コナガ	海匝	2.3	6.5	5.4	
	ハスモンヨトウ	県内全域	2.4	4.1	4.6	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.3	0.1	0.3	
	オオタバコガ	県内全域	0.9	0.9	1.3	
	タバコガ	県内全域	0.2	0.4	0.5	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	2.0	1.1	1.4	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	2.0	1.1	1.4	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.9	0.3	0.3	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.7	1.8	1.7	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.6	2.1	2.0	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	15.3	9.6	
ツヤアオカメムシ		〃	0.2	0.3	0.0	
クサギカメムシ		〃	0.7	0.6	0.0	
カメムシ類		〃	16.2	10.5	0.7	
マルボシヒラタヤドリハエ (天敵)		〃	1.0	1.5	0.3	

注) 種類別の単位の違いに注意

○気象予報

7月14日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

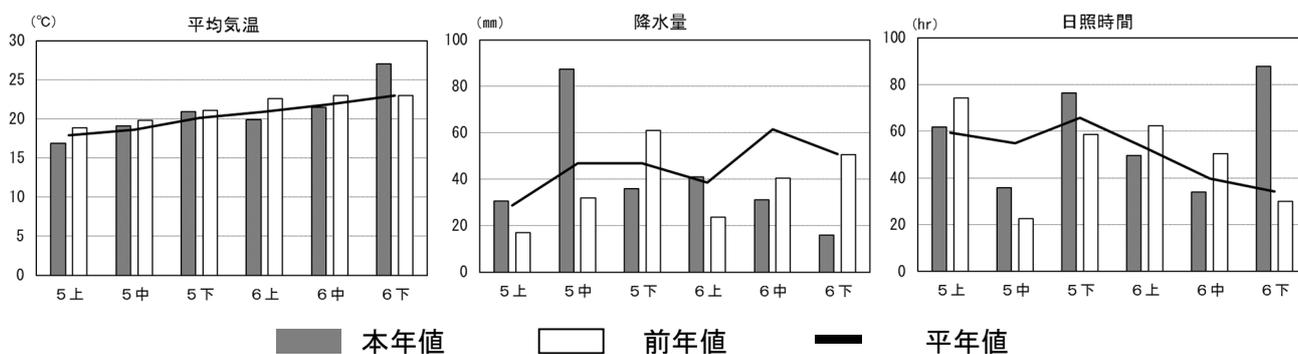
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(7月16日～8月15日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.9	24.9	26.4
降水量(mm)	96.5	83.2	109.6
日照時間(hr)	187.4	212.5	212.7



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は8月17日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp